

全量種子更新100%の実施！



魅力ある
みなみ筑後の
麦作りを行い
ましょう！

- タンパク質含有率等の向上
- 赤かび病防除の実施
- 土づくりの実施
- 全量種子更新の実施

令和9年産 みなみ筑後の麦づくりこよみ

作成日：令和8年7月28日
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

赤かび病防除の実施による高品質麦づくり！

月 旬 項 目		11		12		1			2			3			4			5			6	
		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育期間			播種適期		栄 養 生 長 期 間							幼穂伸長期間			登 熟 期 間							
主な作業 【資材名】 (実施日)	優土良種子の準備材	種 子 消 毒	基 肥 施 用	播 種	除 草 剤 散 布	麦 3 枚 以 上 の 頃 踏 み ①		追 肥 (小 麦)	土 入 れ 排 水 ①	麦 踏 み ②	土 入 れ 排 水 ②	追 肥 (大 麦)	除 草 剤 散 布 ③	麦 踏 み ④	土 入 れ 排 水 ③	穂 揃 期 追 肥	赤 か び 病 防 除	収 穫				

※○印の数字は、作業回数を表わす。

品 種 特 性 表							
区分	品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂 数	栽培上の注意点
小麦	シロガネコムギ	4.4	5.24	80	8.1	556	極強 穂数の確保を図り、穂発芽に注意する。
	みなみのやわら	4.8	6.1	84	7.7	507	強 パン・中華適用小麦。 赤かび病・穂発芽に注意する。
大麦	はるしずく	4.4	5.17	87	6.9	583	強 早播きや播種量増は避け、適期播種適正播種量を守る。 ヤギシロトビムシの害は小麦より出にくい。

※「みなみのやわら」は、「ミナミノカオリ」の特性を準用。



カラスノエンドウ



アメリカフクロ



スズメノテッポウ



赤かび病

小麦の収穫期の水分と適切な収穫法	
子実水分	適 切 な 収 穫 法
% 25～30	コンバイン収穫はできるが品質をわずかに損う
20～24	コンバイン収穫に適する
17以下	脱粒などのロスが多く、品質が著しく悪くなる

	仕上水分
小麦	11.5%以下
大麦	12.5%以下

① 播種適期・播種量

小麦	播種適期	11月15日～11月30日
小麦	播種量	6～7kg/10a
大麦	播種適期	11月25日～12月10日
大麦	播種量	5kg/10a

※適期播種に努める。
※大麦は早播きすると品質が低下し、遅播きすると収量が低下します。
※5cm以上の深播きは行わない。
※播種が遅れた場合は、3割程度播種量を増やす。
※土壌が乾燥している場合は播種後鎮圧を行う。

② 種子消毒

種子更新を行いましょう！

対象病虫害	薬 剤 名	処理方法および処理時期
斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子重量の0.5%【種子10kgに50g】を種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ(小麦のみ)	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当り原液6mℓ【種子10kgに60mℓ】を塗抹処理する。
大麦 網斑病・斑葉病 小麦 なまぐさ黒穂病	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当り原液20mℓ【種子10kgに200mℓ】を塗抹処理する。

※クルーザーFS30を使用する場合は、種子10kgに対し水60mℓを馴染ませた後、クルーザーFS30を60mℓ塗抹処理し、殺菌剤(ベンレートTコート)を種子粉衣する。
※ベンレートTコートとキヒゲンR-2フロアブルの混用は行わない。

③ 土づくり基準

排水対策	地下排水	有材暗渠+弾丸暗渠
	表面排水	ほ場周囲+うね間(枕地に溝を切り排水溝に通す。)
有機物の施用	稲 わ ら	全量12～15cmの深さですき込む
	堆 肥	牛ふん(発酵処理物1～2t)
土壌改良資材	資 材 名	10a当り施用量
	土力の素	45kg
	ミネラルG	160kg
酸性矯正資材	炭酸苦土石灰	200kg
	消石灰	160kg

※特に大麦は、酸性土壌に弱いので酸性矯正資材を投入する。
※堆肥散布後は、直ちにすき込みを行う。
※稲わらは、焼却せず有機物の施用としてすき込む。

④ 施 肥 基 準 (適期播)

タンパク質含有量を上げるため一発追肥または2回追肥を行いましょう！

品 種 名	施肥項目・ 時期及び 肥料	基 肥		追 肥		一発追肥(※ 感効性肥料による)	穂揃期追肥
		ちくこのめぐみ444 (14-14-14)		小麦 1月中旬～ 1月下旬	小麦 2月下旬～ 3月上旬	小麦 1月中旬～ 1月下旬	4月下旬 (穂揃期) 硫 安 (21-0-0)
小麦	シロガネコムギ	40kg		NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	麦追肥一発2号 (24-0-5) 最大40kg	—
	みなみのやわら	40kg		NK化成2号 (16-0-16) 30kg	NK化成2号 (16-0-16) 10kg	硬質小麦専用追肥 (30-0-4) 最大40kg	10～15kg
大麦	はるしずく	20kg		NK化成2号 (16-0-16) 20kg		—	—

※大豆後作は基肥を大麦小麦ともに50%程度減量し、追肥についても生育状況により加減する。
※稲わらを全量すきこむ場合は基肥を10kg増量する。
※追肥の後は効果を安定させるため土入れを必ず実施する。
※みなみのやわらは、タンパク質含有率を上げるために、穂揃期の追肥(実肥)を実施する。

⑤ 病害虫防除

対象病虫害	薬 剤 名	処理方法	使用回数	使用時期
赤かび病	ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	3回以内	収穫7日前まで
	ミラビスフロアブル	8～16倍 0.8ℓ/10a (無人航空機散布) 1500～2000倍 100ℓ/10a	2回以内	小麦 収穫7日前まで 大麦 収穫14日前まで

※みなみのやわらは、赤かび病に弱いので2回防除を行う。

※ミラビスを必ず1回目に使用すること。

※開花期に降雨が続く場合、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回防除(1回目から5～7日後)を行う。

⑥ 除 草 基 準

土壌処理剤を必ず使用しましょう！

区分	薬 剤 名	処理時期	10a当り使用量 (散布流量)	使用上の注意事項
雑草多発田	ザクサ液剤	耕起又は播種前	300～500mℓ (100～150ℓ)	農地及びほ場周辺には必ず麦類に登録がある、農耕地用除草剤を使用する。 乳剤、粒剤ともに排水不良田や降雨(特に大雨)の前後には使用しない。
	ラウンドアップマックスロード	耕起前又は播種後出芽前	200～500mℓ (25～100ℓ)	
土壌処理剤	リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	一年生広葉雑草の残存雑草の多い場所に散布する。 除草剤抵抗性スズメノテッポウには効果がないので注意する。
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80mℓ (100ℓ)	
茎葉処理剤	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	ヤエムグラの多い場合。
	ハーモニーDF	播種後～節間伸長前	5～10g (100ℓ)	
	バサグラン液剤	大麦 生育期 (但し 収穫90日前まで) 小麦 生育期 (但し 収穫45日前まで)	100～200ml (70～100ℓ)	
	エコパートフロアブル	麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期まで)	50～100mℓ (100ℓ)	

※ザクサ液剤、ラウンドアップマックスロード、ハーモニーDFの散布については周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)に十分注意する。
※ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後、水洗いをする。
※ハーモニー細粒剤F・ハーモニーDFはどちらか一剤だけ、1回のみの散布。
※土壌処理剤は土塊が大きいと薬害がやすいので十分砕土を行い、2～3cmの深さに播種する。
※カラスノエンドウは、除草剤散布を行い、花が咲く頃までに必ず抜き取る。
※広葉雑草には、ハーモニーDF 5gとサーファクタント30 100mℓを水100ℓに加用する。

⑦ 適 期 管 理 作 業

適期管理作業が速やかに行えるように、排水対策を行っておくことが基本。

- (1) **土入れ** 雑草や無効分げつの抑制・倒伏防止・表面排水等の効果がある。1月上旬～中旬(本葉3～4枚頃)・2月上旬～中旬・3月上旬の土壌の乾燥した日に行う。第1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育にともなって土の量を増やしていく。
- (2) **麦踏み** 分げつ促進と徒長の防止に効果がある。1月上旬～2月中下旬(節間伸長開始まで)に土壌の乾燥した午後に3～5回行う。
- (3) **土入れ・麦踏み作業での注意事項**
 - ① 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み直後には行わない。
 - ② 麦踏みは茎葉に霜・露があるとき行くと損傷が大きい。
また、土が湿っている時に行うと土をしめつけることになり、その後の生育を抑制するので注意する。

⑧ 倒 伏 防 止 対 策

- 《基本対策》
- (1) 適期に適量の播種を行う。
 - (2) 踏圧・土入れ、排水対策などの管理作業を徹底する。



栽培速報等を発信していますので
LINE登録を宜しくお願い致します。

水稻・麦・大豆速報LINE

南筑後農業協同組合農畜産課
南筑後普及指導センター
瀬高グリーンセンター
大牟田グリーンセンター
山川グリーンセンター
高田グリーンセンター

TEL(63)－8814
TEL(62)－4191
TEL(62)－4111
TEL(56)－8915
TEL(67)－1214
TEL(22)－3218

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！